データでみる「春の訪れ」 From 静岡

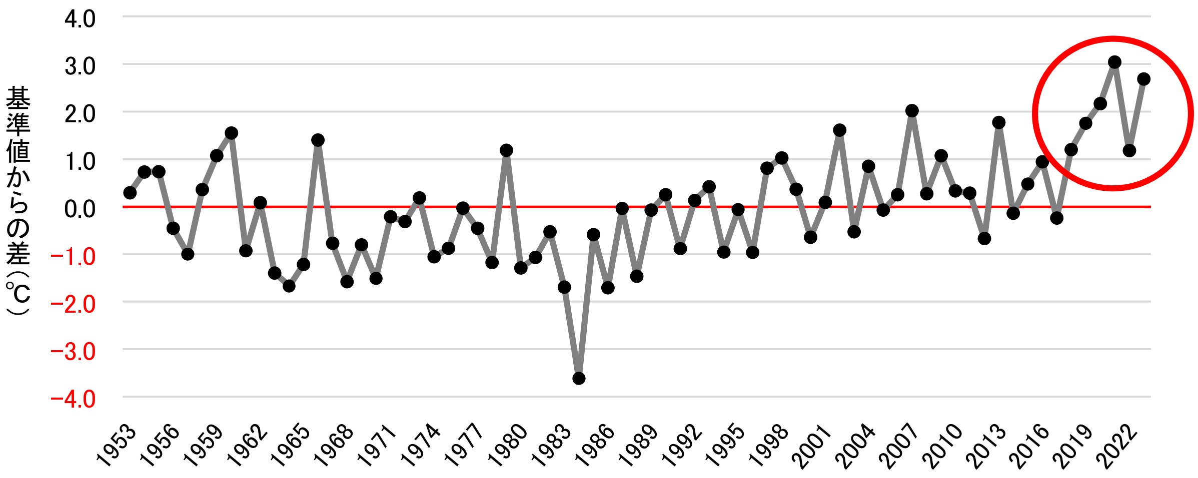
今年も春がやってきました。そこで、静岡の春について、データで考えてみましょう。

●春の温暖化は進んでいる

右のグラフは、静岡市の1953年から2023年までの2～3月の最高気温の平均を基準値として、年ごと、どれだけ温度差が出ているかを示してみました。

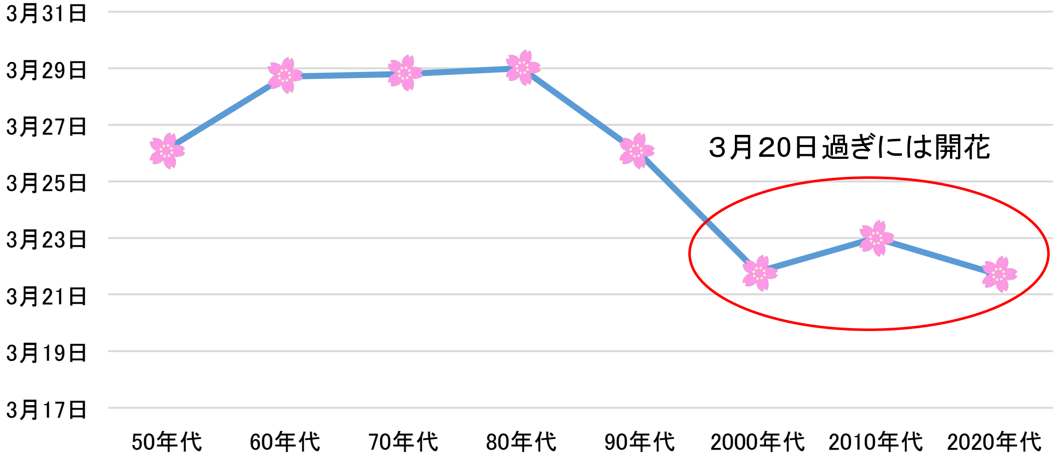
静岡市でも1990年代を境に、温暖化の影響は年々大きくなっており、特にここ数年の春の温度上昇は著しいことがわかります。

静岡市の2-3月の最高気温の平均値の推移（※基準値比較）



気象庁データから作成【※基準値＝1953-2023の平均値】

静岡県の桜の開花日平均



気象庁データから作成【期間＝1953～2023】

●桜で考える静岡の春のむかしといま

温度上昇によって、静岡の春には、昔と今でどのような影響が出ているでしょうか。

左は、静岡県の桜の開花日の年代別平均の推移を示したものです。

80年代までは、3月の月末に開花することが多かったものの、90年代以降は3月20日過ぎに開花と、約一週間ほど早く咲く傾向が出ており、春が早まっていることがわかります。

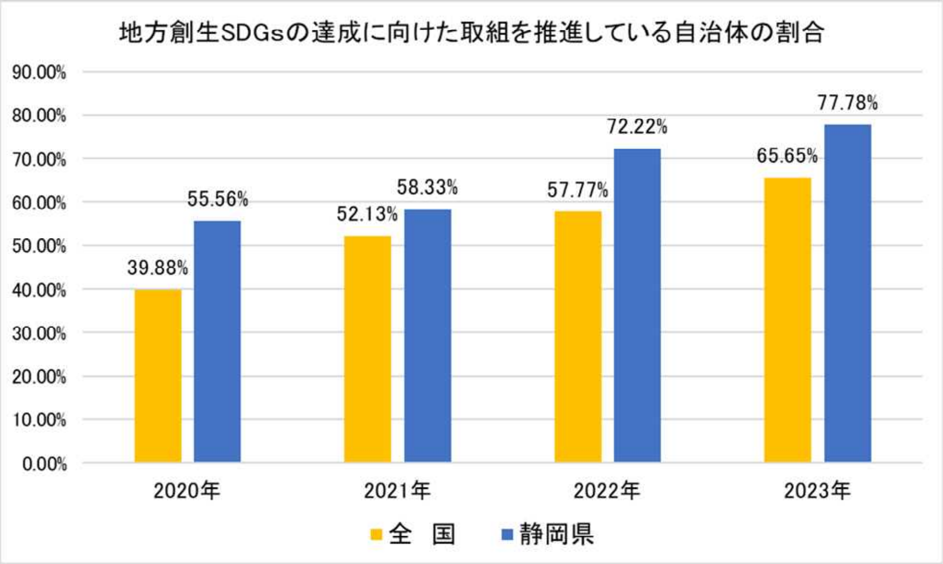
このまま温暖化が進むと、桜の開花が春から冬になってしまう地域や、開花に必要な寒さが足りず、開花しない地域がでるかもしれません。

SDGｓで桜を守ろう！

日本の春を象徴する桜は、日本人の心

ここ数年でよく聞かれるようになった「SDGs」。
SDGs（ｴｽ･ﾃﾞｨｰ･ｼﾞｰｽﾞ）とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。
このSDGsの中にも、「目標13　気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る」があります。
桜の開花日が早まっている傾向があるように、SDGsの取組と非常に深く関わります。
そこで、静岡県はどのくらい取り組んでいるのかをグラフにまとめてみました。

地球環境保全や温暖化を食い止めるため、静岡県はSDGsの積極的な取組を進めています。
グラフを見ると、推進している自治体の割合が高い都道府県では、静岡県は77.78%であり、全国の割合と比較して全国を上回っています。



順　位	都道府県	割　合
1位	千葉県	89.09%
2位	東京都	85.71%
3位	埼玉県	82.81%
4位	佐賀県	80.95%
5位	茨城県、石川県、鳥取県	80.00%
8位	大阪府	79.55%
9位	福井県、**静岡県**、京都府	77.78%

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

13 気候変動に具体的な対策を

また、県内企業の中には環境ビジネスの裾野を拡大し取組を促進するため、「脱炭素」「自然共生」「資源循環」など、様々な分野において取組が行われています。（出典：静岡県くらし・環境部環境局環境政策課「環境ビジネス事例集一覧」）

＜まとめ＞このまま温暖化が進むと、桜の開花が春から冬になってしまう地域や、開花しない地域がでるかもしれない。
SDGsに興味を持ち、身近なことから始めよう！